

日本共産党

被爆地における長崎さるくのあり方

問 修学旅行生が、平和学習等で長崎さるくに参加する際の料金を値上げし、長崎国際観光コンベンション協会の収入増を図る計画があると聞いた。被爆地長崎として、平和教育推進の方向性とは逆行していくものと考えてるが見解を伺いたい。

答 10年目を迎える長崎さるくは、ニーズや環境の変化に合わせた見直しが必要な時期にきており、修学旅行についても見直しを行うこととしている。そこで、参加料については、平成29年度から、予約受付などの人件費や直前キャンセル防止の観点から、これまでの1班1000円を小学生1人300円、中学生1人500円に変更することとした。

今後も、関係団体と協力し、平和学習の創出やメニューの充実を図っていききたい。

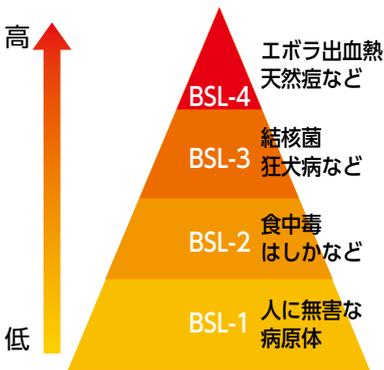


▲平和公園でのさるくの様子

BSL-4 施設建設の考え方

問 市は、長崎大学が設置を計画するBSL-4施設建設の連絡協議会に参加して議論を重ねているが、近隣住民が反対する中でも推進していくのか。

答 施設の設置には、安全性の確保と市民の理解が前提であり、そのためには国の関与が不可欠だと考えている。現在、協議会で、課題の明確化と対応等の協議を重ねており、市民の不安や心配の声に、丁寧にかかりやすく答えていくことが重要だと考えている。国においては、国際的に脅威となる感染症対策の強化に関する基本計画が決定され、BSL-4施設を中核とした感染症研究拠点の形成について必要な支援を行うことやその方策等の検討を行うことが示されている。市としては、国に対し積極的に意見するとともに、協議会において課題解決に向け協議を進めたい。



▲BSL (バイオセーフティレベル) 分類 BSL-4 施設とは、最も危険度の高い病原体を扱うことができる施設です。

自由民主党

世界遺産登録とまちづくり

問 「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」について、推薦書再提出までのスケジュールや予算面も含めた県との調整の内容、また、外海地区において遊休施設を宿泊施設として活用する意向について伺いたい。

答 推薦書再提出までのスケジュールについては、今年の3月下旬に国内推薦の公募がなされるため、まずは、イコモスとのアドバイザー契約を長崎県が締結し、その助言と支援を受けながら推薦書の見直しを行っていく。

なお、推薦書見直しの費用については、まずは県の予算対応となるが、具体的な費用が明らかになった段階で長崎市の負担等について検討したい。

また、外海地区の宿泊施設整備については、遊休施設の活用も含め地元雇用を創出するような仕組みを検討したいと考えている。



▲外海地区にある教会群の構成資産のひとつ「大野教会堂」

市民病院の運営と救急医療

問 長崎みなとメディカルセンター市民病院で、2名の救急専門医が退職することに伴う今後の救急医療体制と、ER型の救命救急センター開設の目途について伺いたい。

答 今後の救急医療体制については、救急医療の経験を有する医師を救急担当として配置することや、病院全体で救急医療体制をバックアップしていく体制を構築するとともに、長崎大学や輪番病院等との連携も図りながら、引き続き市民が安心して医療を受けられる体制を維持していきたい。

また、ER型の救命救急センターの整備については、目標とした平成27年度までの整備はできなかったが、救急専門医の確保に向け全力で取り組み、早期に整備したい。



▲平成28年度中の全面開院を目指している。

※ER型救急システムとは、基本的に全ての救急患者に対応する救急初期診療型で、ERは救急室(emergency room)の略語